

美歴だより

諫早市美術・歴史館だより

館長のつぶやき	2
BIREKI・レポート	4
いさはやの生活	5
いさはやの歴史	6
古文書の部屋	7
お知らせ	

CONTENTS

Isahaya
Museum of
Art & History
Museum News
Vol.25

朝焼けの空～白木峰高原から～

「エフエムいさはやへの出演」

昨年度から年度4回のペースで「館長講座」を実施しています。芥川賞作家野呂邦暢氏の初めての歴史小説「諫早菖蒲日記」に表されている歴史事象を「諫早市史」により確認しながら諫早の歴史を学ぶ講座です。諫早に関係するそれぞれの歴史事象を私自身も大いに学びながらその楽しさも味わっているところです。

さて、これまで館長講座で話した内容をもとに「諫早菖蒲日記と諫早の歴史」をテーマとして、エフエム諫早に出演しています。「諫早菖蒲日記」では、歴史の流れの中で大きな影響を与えた事象だけではなく、小説の舞台である江戸時代を中心（主人公らの古の諫早について回想する場面があり平安時代、鎌倉時代、室町時代などに遡ることも）に諫早にかかわる出来事や佐賀との関係、当時の諫早の人々の暮らしの様子など多面的に描かれています。それらが話しの内容です。

今年度は月2回（基本的に第1、第3水曜日午後2時からの番組「ハートフルレインボー」内）、合計年間24回の出演となります。8月までで10回を終了しました。パーソナリティの方の軽妙なトークに助けられながら回を重ねているところです。通常25分間が私の出演枠になっています。

スタジオ内にはディスプレイが設置され、放送のメニューが表示される画面の中にタイマーも表示されています。パーソナリティの方との掛け合いも含め、枠内で終わらないとその後には絶対にはずせないスポンサーのCMやリスナーの皆さんからのリクエスト（曲）などの時間が設定されています。ご迷惑をおかけするわけにはいきませんので、枠内で終われるよう話す内容（量）をタイマーを見ながら調整していかなければなりません。毎回「あと残り何秒」とスリリングな時間を過ごしています。放送内容は、初めに「番組のその日のテーマ」（8月18日の放送では「好きな夏野菜」）についての話題、その後にメインの歴史の話、最後に美術・歴史館の催しやお知らせ、ときには常設展示品の紹介なども行っています。

館長のつぶやき

以前、パーソナリティの方から「諫早だけでなく全国の方々が聞かれていますよ」ということをお聞きしました。お恥ずかしいことに、その意識が私には足りなかったように思えます。エフエム諫早の電波を受信できればどこでも聞くことができるのは当たり前なことなのに……。8月18日の出演日、私の家族が、放送時刻の30分程前から聞き始めたそうです。そのとき、宮城県仙台市のリスナーの方から8月の豪雨に対する御心配のメール投稿があり、その中で「諫早市美術・歴史館の堀館長……」という言葉もあつたらしいのです（私自身はスタジオへ向かう時間帯で聞いていません）。遠く他県の方も聞いておられるのだと驚きました。

この番組に出演することが、全国の方々に「諫早」・「諫早の歴史」を知ってもらう機会であることを改めて感じました。特に、全国に諫早御出身の方々がいらっしやと思うのですが、リスナーとなっておられる皆様に郷土諫早を懐かしんでいただけると幸いだなと思います。そのような役割を与えていただいていることに喜びと緊張を改めて感じさせられる今日この頃です。



(館長：堀 輝広)

飯盛町江の浦 熊野神社
天井絵・絵馬展

4/17(土)～5/16(日)



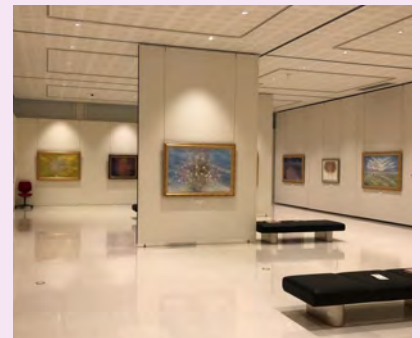
天井絵は神社や寺に奉納される信仰の形の1つです。仕切った格子の中に、それぞれ花卉や人物、動物など様々な題材が描かれています。今回は飯盛町佐田（江の浦）の熊野神社天井絵と絵馬を写真パネル化して展示しました。市内の文化財を知っていたく契機となりました。

荒木幸史展

～親友・野呂邦暢との再会～

5/30(日)～6/13(日)

荒木幸史は諫早市出身の画家で、生涯にわたって「コスモス」を描き続けました。また、ともに諫早高校の美術部に所属していた芥川賞作家・野呂邦暢は一級下の親友でした。今回の企画展では、荒木の作品に加えて野呂の直筆原稿なども展示し、2人の交流について紹介しました。



諫早の水害展

7/3(土)～8/1(日)



昭和32年7月25～26日の諫早大水害や昭和57年7月23日の長崎大水害を中心に、当時の被災写真や映像、復旧復興に関わりのある幟旗、被災者の体験談などを展示しました。

今年の夏も全国各地で大雨の被害がありました。過去の水害を振り返り、身近に起こりうる災害の備えとなればと思います。

追憶

—戦地からの手紙—

8/7(土)～8/22(日)

戦火に散った諫早市出身軍医が家族に宛てた軍事郵便を展示しました。戦地や戦友の様子がイラストで描かれ、その文面には諫早に残る妻や家族への愛と慈しみがあふれています。

時間をかけてじっくりと観る方が多くいらっしやいました。戦争や家族について考えるきっかけとなれば幸いです。



美術・歴史館では、館長講座・歴史講座・民俗講座・史跡見学などの講座も定期的に開催しています。（事前申し込みが必要です。）

詳細な内容は、随時、市報やホームページでご案内しています。





いさはやの生活

VOL.7 公役(くやく)

集団での共同労働慣行のひとつで村夫役ともいいます。共同労働慣行にはほかにモヤイやユイがありますが、モヤイやユイはある範囲での労力交換で参加者相互の意思で成り立つものです。そのモヤイとユイですが、モヤイは地域、地縁で組むことが多く、これに対しユイは近しい者、親戚など血縁関係者の間で成立したようです。作業内容を見るとモヤイは田植えや伐採、焚物割りなど広い範囲に関わる作業によく見られました。ユイはそうした大掛かりな作業以外の新しく派生した作業、やや規模が小さな作業、諸ほりなどに多く見られます。このモヤイとユイについては、まずモヤイが基本的な慣行として先にあり、ユイはそのうえに発生した慣行と考えられます。

さて、公役ですが、その地域、集落に必要な作業に課せられました。公役ですから、公の仕事で、個々はそれに従事することが求められます。つまり、義務仕事、村仕事といえます。より広い範囲での共同労働で、例えば道普請や河川氾濫での橋の倒壊などに各家からたいてい一人が公役に参加します。なかには男性と決めたこともありましたが、男女のどちらかが出るところが多かったようです。道普請では組や班ごとに受け持つ範囲を決め、そこをし終えるまで、責任をもって公役作業に当たりました。こうした公の仕事には参加が強く要請され、参加しなかった者、つまり義務を怠った者には罰金が徴収されました。罰金は金銭のほか米や麦といった穀物で払うこともありました。長田地区ではこうした罰金をウツカギといっていました。公役では参加しなかった者は罰金を支払うわけですが、それで済むということでもなく「怠け者」「ずるい」といった評判をうむことともなっていました。ときには村八分といったことにもなりました。

公役仕事には道普請のほかに、井手浚えなど、集落（全体）に不可欠なことで課せられるのが普通でした。





八天狗 高来町古場



この八天狗は、五家原岳の尾根筋に祭祀され、石祠を覆うように安山岩の平石が積み上げてられています。石祠の中央に「八天狗」（はつてんぐ）、向って右側面に「天明五乙巳歳」（1785）と建立年が刻まれています。

八天狗は、愛宕山太郎坊・比良山次郎坊・飯綱三郎・鞍馬山僧正坊・大山伯耆坊・彦山豊前坊・大峰山前鬼坊・白峰相模坊をいい、修験との関係が深いです。また、防災、鎮火の守り神として信仰されました。

佐賀藩諫早領内には多くの「八天狗」と刻まれた石祠や自然石があり、その多くが「八天神社」（佐賀県嬉野市）より勧請されたものと思われまます。

古文書の部屋

いろいろな文字資料：木簡（もっかん）

文字資料の中に木簡と呼ばれるものがあります。木簡とは、地中から出土した墨などで文字が記された木製品のことで、日本各地の遺跡から、古代から戦前までのものが46万8千点余り出土しています。今回は「木簡」についてご紹介します。

木簡とは

発掘によってみつける出土文字資料には、木簡のほかに、墨書（ぼくしょ）土器、漆紙（うるしがみ）文書などがありますが、情報量の多さという点で、木簡は最も代表的な出土文字資料といえます。諫早市内の中世から近世にかけての遺跡でも数点発見されています。（下記「参考」参照）

木簡の種類

内容的に大別すると、以下の3つに分類することができます。

- ① **文書木簡**（手紙の木簡、帳簿・伝票の木簡）
- ② **付札木簡**（租税を納める際の荷札木簡、保管の際のラベルの木簡）
- ③ **習書・落書木簡**その他（習字や落書きなど）

参考



左の写真は **沖城址**（おきじょうし／諫早市仲沖町・幸町）より出土した木簡の一部です。（中世～近世／当館所蔵）

沖城址は戦国時代、西郷氏の支城として築かれ、江戸時代以後は龍造寺家晴が隠居したといわれています。木簡には左から「白金カ三つ入■」、「仁五郎カ」、「■■■三■入多カ■■■」と書かれていて、**荷札**として使用されたと考えられます。

参考資料：奈良文化財研究所ホームページ

（江口喬裕）

お知らせ

発行日：令和3年8月

企画展

観覧料/無料

逸材と呼ばれた早世の日本画家
生誕100周年記念
馬場孟臣展

短い生涯で残された作品には、色彩や構図に新しい感覚が溢れ、次の時代の日本画壇を背負うはずであった才能がうかがえます。



会期

令和3年11月13日(土)～12月12日(日)

10時～19時 ※最終入場は18時30分
休館日：毎週火曜日

※ただし、11/23(火・祝)は開館し、
11/24(水)は休館します。

会場 企画展示室

一発掘調査の成果—
諫早の遺跡コレクション

旧石器時代から江戸時代までの土器・石器・装飾品など、発掘された諫早の歴史を紹介します。



会期

令和3年9月26日(日)～10月9日(土)

10時～19時

※最終入場は18時30分

休館日：毎週火曜日

会場 企画展示室

出張美術館 in 森山図書館

美術・歴史館初の出張美術館。館が所蔵する美術品の数々を森山図書館の展示ホールで紹介します。



会期

令和3年10月2日(土)～10月24日(日)

10時～18時

休館日：毎週火曜日、10/21(木)

会場 森山図書館展示ホール

◎マスクの着用や入館時の手指消毒をお願いします。
◎発熱等の症状がある方のご利用はお控えください。
◎イベント等は、今後の状況によっては中止・延期となる場合がありますのでご了承ください。

―編集後記―

あっとい間に夏も終わり、過ぎやすい秋がやってきます。昨年の美歴は、県展、市展が中止となり、静かな秋となりました。今年には、感染対策を十分に言い開催される予定です。
館の企画展、講座も実施予定です。なかなか遠出ができない日が続きますが、当館が、近場で秋の学びと癒し、楽しみの場となれば幸いです。
表紙の写真は、7月末に白木峰高原から朝5時の朝焼けの写真が届きました。早朝の天体ショーが素晴らしかったそうです。美しいですね。

(野田さやか)

貸館の利用について
美術・歴史館のホール、企画展示室、研修室はどなたでも利用できます。(要予約・有料※減免制度があります)
ただし、利用目的が美術(写真、漫画を含む)、華道、茶道及び歴史などに限られております。詳細は、お気軽にお尋ねください。

「来館者への連絡票」の記載について

入館の際、連絡先等の記載をお願いしております。新型コロナウイルス感染症の疑いが生じた場合と館の運営のみに使用するものです。皆様のご協力をお願いいたします。